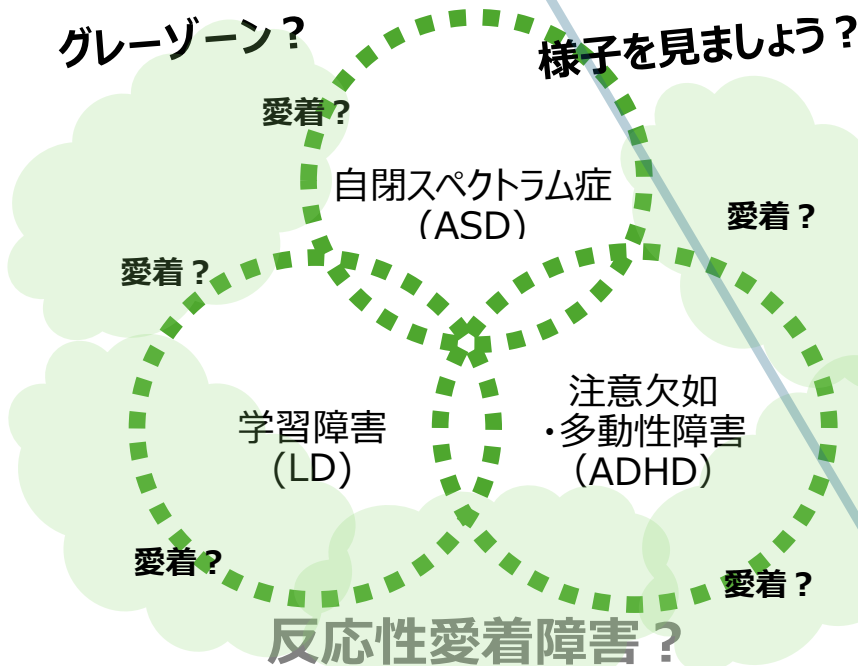


子ども達からの電話やチャット、メールから、**愛着の課題**が見えてきた！

発達障害かなと思われる子どもが増えている？

★「発達障害」という言葉について：disorder？病気？症候群？あくまでも症状による診断に過ぎない。診断基準（DSM、ICD）も確定的なものではなく、何度も改訂されている。脳機能障害？先天的後天的要因も明確ではない。

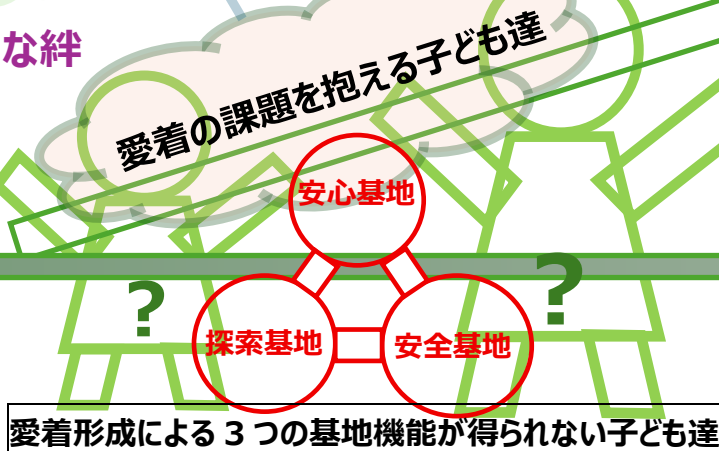
グレーゾーン？ 様子を見ましょう？



愛着形成は特定の存在との特別な絆

愛着形成は、子どもからの欲求に応えること。養育者（血縁は関係なく、特定の人）が一方向的に可愛がる（世話をすることとは違います。（応答性）

生後1歳半までが**愛着形成**の臨界期



＜愛着形成が人と人との絆の土台をつくります＞

～4つの愛着パターン～（子ども）

※ストレンジシチュエーション法 (Ainsworth et al., 1978 Main&Solomon, 1986)

安定型

ストレスに強い、主体の確立、自立しやすい、意欲的な人生を歩む

母親と離れる時に多少泣いたり混乱するものの、母親が戻ってくると抱きついたりして、すぐに気持ちを落ち着ける

★以下不安定型

抵抗/両価型（大人では不安型）

母親と離れる時に強い不安や混乱が見られる。母親が戻ってきても怒りながら母親を叩くなどネガティブな感情の切り替えがなかなかできない

回避型（大人も回避型）

親密な関わりを避けようとする。うわべだけ。力、利害だけ

母親と離れても殆ど泣いたり混乱したりしない

無秩序・無方向型（大人は恐れ/回避型、未解決型）

戻ってきた母親に対して顔を背けながら近づいたり、うつろな表情のままじっと動かなくなってしまうこともある。虐待に見られることが多い

未解決の愛着の傷 乖離、依存になりやすい

出典「不安型愛着スタイル」岡田尊司著 光文社新書

愛着スタイル	特徴
安定型	愛着不安、愛着回避とも低く、もともと安定したタイプ
安定—不安型	愛着不安の傾向がみられるが、全体には安定したタイプ
安定—回避型	愛着回避の傾向がみられるが、全体には安定したタイプ
不安型	愛着不安が強く、対人関係に敏感なタイプ
不安—安定型	愛着不安が強いが、ある程度適応力があるタイプ
回避型	愛着回避が強く、親密な関係になりにくいタイプ
回避—安定型	愛着回避が強いが、ある程度適応力があるタイプ
恐れ—回避型	愛着不安、愛着回避とも強く、傷つくことに敏感で、疑り深くなりやすいタイプ

大人 ↑
愛着という子ども時代の課題を抱える大人でも、愛着はいくつになっても修復できる！



参考文献：岡田尊司著「発達障害と呼ばないで」幻冬舎新書、「不安型愛着スタイル」「回避性愛着障害」光文社新書